



2013
秋季号

ほっと石川

特集

みのり

“農”ある
未来をつくろう!



“農”ある未来をつくろう!

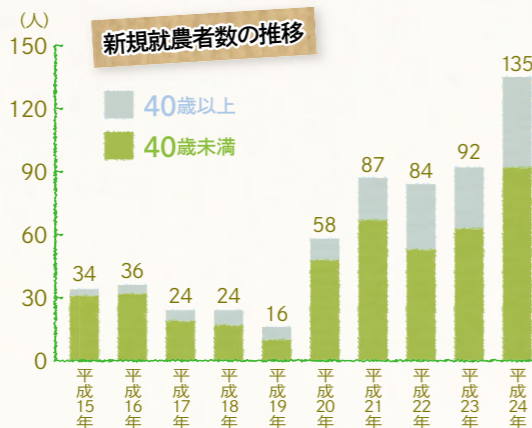
みのり



いしかわ耕稼塾(4ページ)で学ぶ研修生の皆さん

全国農業担い手サミット開催 in いしかわ

10月29～31日にかけて、いしかわ総合スポーツセンター(金沢市)などで「全国農業担い手サミットinいしかわ」が開催されました。同サミットは日本各地から意欲ある農業の担い手が集まり、それぞれが交流や意見交換などを行い、地域農業を活性化していくことを目的に毎年、開催されています。全国から多くの農業の担い手が参加し、県内11カ所が地域交流会場となり、特色ある県内の農業にふれていただきました。



を開講し、新規就農を後押ししています。これらの取り組みによる効果は数字にも徐々に表れ、平成24年には平成15年の約4倍となる135人が新規就農者として一歩を踏み出し、耕作放棄地を解消した事例も出てきました。

日本列島のほぼ真ん中に位置する石川県では、米や季節ごとの野菜・果物など、多種多様な農作物が栽培されています。これら大地の恵みを最前線で守り、育てているのは、田畑で汗を流す生産者の皆さんです。県では、農業の活性化を通して実り豊かなふるさとを築くため、その担い手の育成やサポートに取り組んでいます。

新規就農者は10年前の4倍

農業の発展を目指す上で、「担い手不足」が全国的に大きな問題となっています。もちろん、石川県も例外ではなく、農業従事者の平均年齢は68歳を超え高齢化が進んでいます。特に、過疎化が進む奥能登では深刻で、平成19年に実施したアンケートによると、約7割が「10年後の営農が困難」、約9割が「後継者がいない」と答えています。また、担い手不足や高齢化に伴い、耕作放棄地の増加も懸念されています。

こうした状況を打開するため、県では平成21年、農業のワンストップの総合窓口である「いしかわ農業人材機構」を立ち上げ、農業に関するあらゆる相談に応じているほか、就農を希望する方を育成する「いしかわ耕稼塾」

特集
“農”ある未来をつくろう! 2

トピックス
小松空港発、海外行きがより快適、スムーズに10

知事の窓13

ほほえみ 石川のボランティア
志賀町
婦人加工連絡会(志賀町) ...13

里山里海だより
木滑地区(白山市)14

ふるさとの歴史・文化を探る
石川四高記念文化交流館 15

INFORMATION
石川県立歴史博物館移動展 ...16

表紙について

■シリーズ
県産品のある風景

能登棚田米 (奥能登2市2町)

能登棚田米は、輪島市、珠洲市、能登町、穴水町の4つのJAで扱うブランド米です。能登の里山を象徴する棚田で、化学肥料・農薬を通常よりも3割以上カットして育てています。環境にやさしく、味わいも豊かな能登棚田米は県内外で高い評価を受け、奥能登の新たな食の魅力となっています。このように豊かなふるさとの食の魅力を築き、発信していくためには、農業を支える人材の力が不可欠です。今回の特集では、担い手育成に向けた取り組みをピックアップしています。ぜひご覧ください。

表紙イラスト制作/丸口洋平(金沢市出身)

参加家族インタビュー

9月29日にあった「いしかわの農業学ぼうコース」に参加した家族3組をインタビューしました。



小島さんファミリー
(白山市在住)

種まきから収穫まで体験できるのが、うれしいですね。ここで農業の面白さを知り、個人で畑も借りちゃいました。



武藤さんファミリー
(金沢市在住)

以前も参加し、とても楽しかったのでまた来ました。青空の下でいい汗をかき、とても気持ちよく、大満足です。



鈴木さんファミリー
(野々市市在住)

子どもたちに土いじりさせたくて参加しました。娘も楽しかったようで、家庭菜園を始めようかと考えています。



作物の糖度を調べるなど、駅前アカデミーではさまざまな講義を実施

種まきから収穫まで農業学ぼうコース
いしかわ耕稼塾では、就農者の育成だけでなく、県民の皆さんにふるさとの農業を応援してもらおうための取り組みにも積極的です。その一つが、河北潟干拓地内のいしかわ耕稼塾の畑で行う「いしかわの農業学ぼうコース」。農作物の種まきから収穫まで幅広い農作業の体験を通して育てる喜びや苦労を実感し、農業への関心と理解を深めてもらうことを目指しています。

体験や実習を通して
農業の応援団になろう！

種まきから収穫まで
農業学ぼうコース

季節ごとに開催する同コースは平成21年に始まり、これまでに1144人が参加。親子や友人同士で農業にふれあいました。

1月から県庁19階で
開放セミナーを実施

県では、一般県民や就農希望者の方々に、県内農業の現状と魅力をより深く知ってもらうため、いしかわ耕稼塾「開放セミナー」を実施します。日程は来年1月18日から2月15日までの毎週土曜午後2時から。県庁19階展望ロビーを会場に、農業の最前線で活躍中の方を講師に迎え、プロ農業者のこだわり農産物づくりや新規就農者の体験談などをテーマに講演します。

さらに、日中働いている方などを対象に平日の夜には、農業入門講座「駅前アカデミー」も開催。金沢駅周辺で、農業に興味や関心のある方が気軽に学べる場を提供していきますので、ぜひお問い合わせください。

●問い合わせ 公益財団法人いしかわ農業人材機構
金沢市鞍月2丁目20番地 石川県地場産業振興センター新館4F
TEL 076(225)7621 FAX 076(225)7622

いしかわ農業人材機構 検索

ふるさとの農業に みんなでエールを

県では、新規就農者の育成と併せて、ルビーロマンや能登牛といった県産食材のブランド化、能登棚田米やトリガイといった来県者をもてなす食材の魅力向上など、農業活性化に向けた多岐にわたる取り組みを進めています。県産農産物をもっと知っていただくために、今後も力を注いでいきますので、ぜひ、実際に食べていただき、石川の農業を応援してください。



能登棚田米やルビーロマンなど石川には魅力的な食材がいっぱい

就農やスキルアップを支援 ”いしかわ耕稼塾“

就農から経営の高度化まで一貫したサポートを全国で唯一実施する「いしかわ農業人材機構」が主体となり、担い手を育成する「いしかわ耕稼塾」。さまざまな研修コースを用意し、新規就農者や高い経営感覚を身につけた農家、そして農業の応援団などを育成しています。



本科

谷 健次郎さん(白山市在住)
ハウスや露地での野菜栽培を経験しながら、日々、技術を高めています。将来はここで学んだことを生かして、トマト農家を目指しています。町内の営農組合の一員として、ゆくゆくは米作りも担う予定で、地域の農業を引っ張っていきたくと考えています。

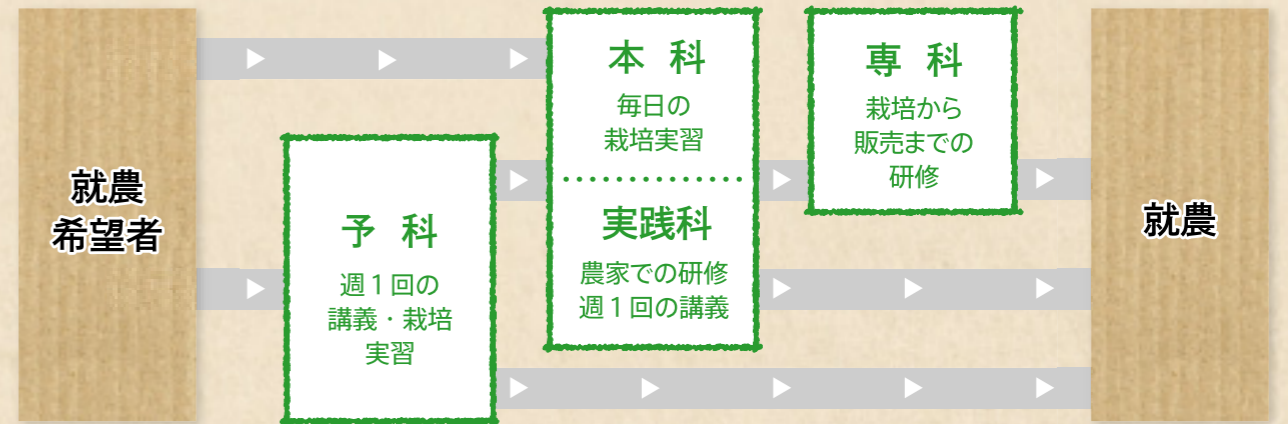
専科で、ハウス1棟を借りてトマトの作付け計画から販売までを経験しています。収穫したトマトは、直売所や飲食店に出荷しました。不安もありますが、ここで得た知識と経験を生かし、卒業後は独立したいと考えています。

井上 卓彦さん(金沢市在住)



専科

就農希望者のニーズに応じたきめ細かい研修コース



※このほか、意欲と経験のある農業者には、企業の経営感覚を学ぶ「経営革新スキルアップコース」もあります。



予科

野菜全般の基本を学んでいます。ピーマンやナスなど、自分の好きな作物を栽培でき、野菜作りの難しさと楽しさを実感しています。卒業後は、実家の米や、い草栽培に取り組むと同時に、農業の魅力を多くの人に伝えたいですね。

宮本 健一さん(小松市在住)



実践科

宮崎 和幸さん
志今さん(珠洲市在住)

農業法人で研修を受けながら、週1回、実践科の仲間と講義を受けています。研修先で栽培するトウモロコシを使った6次産業化なども考えていて、農業を活性化し、息子・孫の世代にも能登の里山を伝えていくのが目標です。

就農希望者と受け入れ側をマッチング 地域コーディネーター

いしかわ農業人材機構では、県内の農林総合事務所に地域コーディネーターを配置しています。コーディネーターは、就農を希望する方に対して、耕稼塾での研修時から農地や資金、機械の調達、受け入れ先である農業法人の紹介など、就農に必要な情報を提供。いしかわ耕稼塾の卒業生などが希望通りの環境で農業が始められるよう、サポートしています。

経営の多角化・高度化を後押し 6次産業化支援

人材機構では、農林漁業者が、生産活動を軸に加工や販売、サービスなどの2次産業や3次産業にも取り組む6次産業化の取り組みを推進するため、豊富なノウハウを持った専門家を配置し、アドバイスや情報提供、商工業者とのマッチングなどを手助けしています。

6次産業化とは……

1次産業である農林水産業が、加工食品の製造・販売、観光農園のようなサービスなど、2次産業や3次産業にまで踏み込み農林水産物の付加価値を高める取り組み。1次、2次、3次をそれぞれ掛け合わせて6次産業化という(1次×2次×3次=6次産業化)。

異業種から農業に挑戦 企業が新たな担い手に！

事業の多角化や 地域貢献につながる

農業の新たな担い手として大きな期待が寄せられているのが、「企業」です。

企業の参入によって中山間地域を中心に増えている耕作放棄地の解消や雇用の拡大も期待でき、里山景観の保全など地域貢献にもつながります。

加えて、企業側にとっては、農業を新たな柱とすることで事業の多角化が実現できます。

農家や地域にとってもメリットは大きく、他業種からの参入で新たな農業のアイデアが導入されたり、異業種間の交流が進んだりするなど、数多くの効果が期待できます。

ワンストップの 相談窓口を開設

半面、農業は自然条件や天候に左右されやすく、思ったほどの収穫量が得られないなど、計画通りに進まないことも少なくありません。安定した農業

経営を目指す上では、価格面や販路など、販売まで含めた一貫した綿密な収支計画が不可欠です。

企業の参入にあたってのさまざまな不安を軽減するため、県では農林水産部に「農業参入サポートデスク」を開設しています。総合窓口として、技術面や地域との連携などあらゆる相談にワンストップで答えています。

ほかの産業同様、農業も情報収集がとても大切です。私たちが農業参入をサポートしていますので、何でもご相談ください。



スーパー大手も農業に参入(詳細は7ページ)

●問い合わせ
農業参入サポートデスク(県農業政策課内)
TEL 076 (225) 1613 / FAX 076 (225) 1618
メール e210100@pref.ishikawa.lg.jp

農業参入を 成功させるために

POINT 1 品目や営農計画は専門家と要相談

ビジネスチャンスの有無だけで参入してしまうと、その地域で栽培しにくい品目を選んだり、無理な営農計画を立てたりするおそれがあります。県農林総合事務所などの関係機関とよく相談してください。

POINT 2 技術の習得と人材確保がカギ

参入の成否は、農業に精通した人材を、いかに育成・確保できるかにかかっています。いしかわ農業人材機構主催の新規就農者向け研修会への参加や農家の雇用などを検討しましょう。

POINT 3 地域との協調は不可欠

農業は、農道や農業用水などを共同利用し、周辺の農家と深くかかわりながら取り組む産業です。参入を計画する際は、行政機関だけでなく、農協や生産組合、地元農家との連携も密に行いましょう。

県農業政策課
竹上 仁志さん
たけがみ ひとし

石川県内ではこれまでに、建設業をはじめ環境関連産業や食品産業など36社が農業分野に参入しています。農業の活性化に取り組む2社の取り組みを紹介します。

参入企業レポート

スギヨファーム(七尾市)

新鮮なまま加工食品へ 直売など営業に力



農場長
半澤 咲子さん
はんざわ さきこ

能登島の
野菜は
おいしいよ

カニカマやチクワなどの練り製品メーカーのスギヨは、平成19年に県内第1号として農業分野に進出しました。昨年3月に同社から独立した農業法人スギヨファームでは、七尾市能登島の26ヘクタールの農地を借り受け、キャベツやニンジン、タマネギなどの栽培に取り組んでいます。

育てた野菜は新鮮な状態で市内にあるスギヨの工場に運ばれ、加工食品の材料に使われています。「野菜そのものを販売するわけではないので、大きさなどの規格をそろえたり、包装をしたりするなどの手間がかからず、コストを抑えられま

す」と半澤咲子農場長は話します。

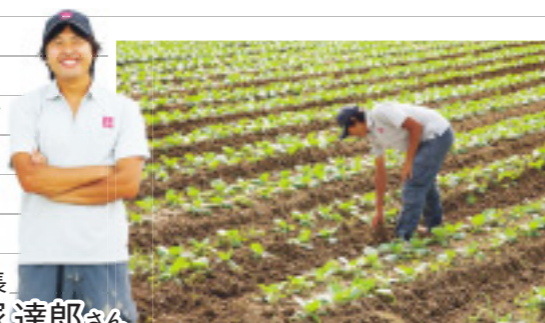
さらに、同社では今年7月から専任スタッフを置き、営業部門を強化。総菜メーカーやスーパーなどはもちろん、金沢や東京のレストランへの販売に力を注いでいます。

「能登島の赤土で育った野菜はしっかりと根を張り、じっくり育つので味わいも格別です」と品質にも絶対の自信を見せる半澤農場長。現在は露地栽培ですが、今後はハウス栽培にも取り組む計画で、顧客のニーズによりきめ細かく応えられる栽培を目指しています。

イオンアグリ創造 かほく農場(かほく市)

第3次産業のトップ企業が 手がける農場がオープン

取れたてを
お届けします



農場長
大塚 達郎さん
おおつか たつろう

スーパー大手のイオングループが今年4月、かほく市の河北潟干拓地で北陸初、全国9番目の農場をオープンしました。かほく農場は13.3ヘクタールあり、キャベツやレタス、ハクサイなどを栽培。今年、収穫したキャベツは、取れたてを直接農場から石川・富山両県のイオン各店に出荷したほか、加工用としても生産し、カット野菜として県外の店頭にも並んでいます。

同社の農業経営で大きな特色と言えるのが、農場管理に「グローバルGAP」の手法を取り入れている点です。これは国際的な農業生産のガイドラインで、きめ細かな点検項目をクリアしながら、

食の安全や品質の向上に取り組んでいます。さらに、全国の農場から集まる生産から販売までのデータを分析し、より効率的な農業も追求しています。

また、かほく農場のオープンによって周辺市町から16人の雇用が生まれるなど、地元経済の活性化にもつながっています。「皆さんとっても頑張ってくれています。北陸のモデル農場となれるよう、これからも地域の方々とともに全力を注いでいきたい」と意気込む大塚達郎農場長。地域住民を招いて収穫祭を実施するなど、かほく農場を通して野菜や農業の魅力発信にも知恵を絞っています。

トピックス コマツのノウハウを農業に導入

石川県を創業の地とする世界的な建設機械メーカー・コマツは今年6月、県と「農業に関する包括連携協定」を結び、里山の農業再生に向けたプロジェクトに取り組んでいます。これは製造業のトップランナーであるコマツの生産管理ノウハウを農業に導入し、「農業版生産工程マニュアル」としてまとめ、里山を含む県内

各地の就農者や担い手農家に普及するものです。今後は、農作業のデータ収集や分析を通して、収益性の高い農業を実現するための手法を検討します。また、コマツからも講師を招き、いしかわ耕稼塾で製造業の生産管理手法について講義をしていただく予定です。



協定書に署名した谷本知事と山下コマツ栗津工場長



(有)西村農園(金沢市)
西村 浩一さん(46歳)

平成18年に(有)西村農園を立ち上げ、代表に就任。金沢市粟崎にある砂丘地で、加賀野菜の五郎島金時をはじめ、小玉スイカやハボタンなども栽培しています。



(有)たけもと農場(能美市)
竹本 彰吾さん(30歳)

大学卒業後、父が代表を務めるたけもと農場に入社。農業や化学肥料になるべく頼らない米作りに努め、インターネットで販売したり、飲食店に卸したりしています。



NOTO高農園(七尾市)
高 利充さん(41歳)

七尾市能登島でNOTO高農園を経営。西洋野菜や能登野菜など約200種類の作物を栽培し、県内外のレストランを中心に出荷しています。

農業の未来をサミットで発信

全国には、農業の未来に活力を与えようと取り組んでいる人がたくさんいます。そんな方々が石川に集まり、今年10月に開かれたのが「全国農業担い手サミットinいしかわ」です。同サミットに県内から参加した3人の担い手に、いしかわ農業人材機構専務理事の高山高市さんがふるさと農業の特色やこれからの農業について聞きました。

農業の魅力を知り就農を決意

高山 ● まずは、皆さんが農業を始めたきっかけを教えてください。
竹本 ● 実家が稲作農家でしたので、子どものころから田植えや稲刈りの経験がありました。そのときは重労働で大変だなと感じていましたが、大学生になって夏休みなどに長期間、家を手伝うようになり、米作りの全体像を見ることができました。そのとき、作物を育てる農業の魅力を感じたのです。

西村 ● わが家も代々、五郎島金時を栽培していて、いずれは農業を継ぐと小さなころから考えていました。20歳のときに就農した際、幸いなことに周りには同世代の農家が多く、すんなりと仕事に入っていくことができました。

高 ● お二人とは違い、私は非農家の出身です。以前はふるさと金沢市を離れ、県外で建設関係の仕事に就いていました。そんなとき、有機農法をしている方と出会い、農業の将来性を感じ、14年前に七尾市能登島で農業を始めました。

産地活性化で担い手を確保

高山 ● 農業を営む中ではさま

ざまな苦労があるかと思いますが、将来的な視点で見ると、担い手不足も大きな問題になります。皆さんは法人化したり、スタッフを雇用したりし、大規模に営まれていますね。

高 ● 最初は妻と2人でしたが、栽培品目や農地を増やす中で、それだけではカバーできなくなり、今は5人のスタッフを雇うようになりました。

竹本 ● たけもと農場でも、10年後、20年後を見据え、スタッフを増やしています。新しい仲間が増えたことで、職場に元気が生まれています。

西村 ● 担い手不足による将来への不安はありませんが、解消するには産地の活性化が一番です。その地域の農業が元気であれば、後継者も自然と集まってくると思います。

高山 ● おっしゃる通りです。それでは、ふるさと

の農業をより盛り上げていく上で、石川ならではの特色はどこにあると思いますか。

取材場所: 県農林総合研究センター



交流を通して未来の農業を探る

ネットワークも強く、切磋琢磨できる環境が整っています。
西村 ● 確かに、多くの先輩方が築いてきた農業に取り組む環境は魅力です。加えて、私の農園からは県庁が大きく見えま

高山 ● 先月(10月)行われた担い手サミットは、皆さんの感じる石川の農業の魅力を発信する

竹本 ● 石川だけでもこれだけ特色ある農業があるので、さら、全国に目を向けると、まだまだ知らないことがあるはずなんです。今回のサミットでは、県外の担い手と意見を交わし、多くのことを学びました。それを今後の農業に生かしていきたいですね。

西村 ● 私は、平成10年に石川で開かれた担い手サミットの前身・全国農業青年交換大会にも参加しました。このときは多くの農業者と知り合い、それが農業を続ける上での励みとなりました。サミットに参加した皆さんは、いろいろな人との交流を通じて、これからの農業を考える契機になったと思います。

高山 ● 最後に、これからの目標を聞かせてください。

竹本 ● 5年前からイタリア料理のリゾット用の米を作っています。前例がなく苦労はしましたが、栽培した米はレストラン関係者に好評です。今後も特色ある米を育てていきたいですね。

聞き手



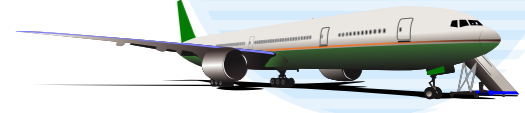
いしかわ農業人材機構
専務理事
高山 高市さん

小松空港発、海外行きがより快適・スムーズに

国際線利用者向けに拡充した第2駐車場



小松空港では現在、ソウル・上海・台北を結ぶ国際線定期便が就航しています。昨年12月には台北便が週5便から増便し、1日1往復するデイリー化となるなど国際化に向けた歩みを進めています。国際線利用者がより快適・スムーズに利用できるよう、空港では施設・設備面で充実した“お・も・て・な・し”態勢を整えました。



Point 1

国際線第2駐車場完成
658台収容可能に

国際線利用者が無料で利用できる国際線第2駐車場が、今年8月に完成しました。336台を止めることができ、県立航空プラザに隣接する第1駐車場と合わせ、従来の約2倍となる658台を収容できます。

これは、国際線の利用状況が好調で第1駐車場が年間100日以上満車になることに対応したものです。県では駐車台数の大幅増を受け、利用対象者を拡大。これまでは国際線の直行便と成田・羽田便で乗り継いで海外に向かう方が無料で駐車できましたが、第2駐車場完成後は新千歳や仙台、福岡、那覇で国際線に乗り継ぐ利用者も対象となりました。

Point 2

待合室を拡大し、免税店も充実

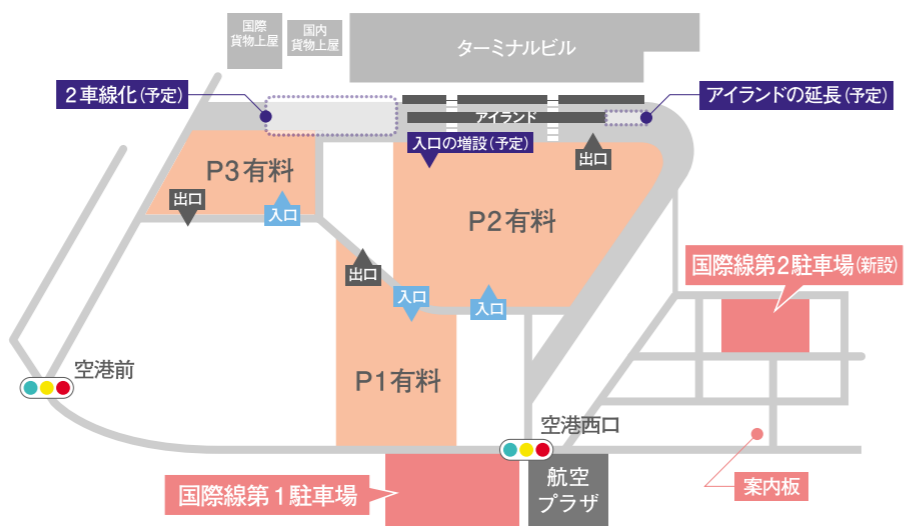
国際線の搭乗を待つ時間も快適に過ごしてもらえよう、小松空港では、出国待合室も大きくリニューアルしました。待合室は8月に従来の1.4倍となる482平方メートルに拡大。座席数は91席増

混雑解消と安全性向上へ 空港内の設備を整備

以前から利用者の要望が多かった空港内の道路整備などが国の事業として取り組まれています。

- ① P2駐車場の入口をターミナルビル側に増設
- ② ターミナルビル前の混雑解消を図るためアイランド(ビル前乗降場所)の延長
- ③ 見通しを良くし事故を防止するため、ターミナルビル手前の道路を2車線化

これらの整備により、小松空港のさらなる利便性の向上を図っていきます。



小松空港免税店 オススメ商品

石川の地酒
酒どころ石川を代表する酒蔵の自信作をずらり。芳醇な味わいをご堪能ください。

金箔入り化粧品
外国人に人気なのが国産化粧品。小松空港ならば、石川らしい金箔入り商品も豊富です。

お菓子
お土産の定番と言えばお菓子。友人や家族向けに手軽に味わえる石川の味覚はいかが。

また、到着時の手荷物受取所はベルトコンベヤーを延長し、2ライオンで使えるように変更。短い時間内に2便の国際線が到着しても混雑しないよう、十分なスペースを確保しました。

えて240席となり、ゆったりと過ごすことができます。免税店も7月、売り場面積を以前の1.3倍に広げ、漆塗りをイメージした黒色を基調に梅鉢紋をあしらった落ち着いたデザインのお店に生まれ変わりました。リニューアルに合わせ、商品ラインアップも充実し、外国人に人気の国産化粧品や腕時計などに加え、地酒や伝統工芸、和菓子といった地元の特産品も数多くそろえています。



より快適に使いやすくなった待合室



商品ラインアップが充実した免税店

新たな搭乗橋を設置し、国際化に向けて前進



ふるさとの歴史・文化を探る

石川四高記念文化交流館 (金沢市)

“文学”と“学生”の街、 金沢の風土を学ぶ

日本有数の「文学」と「学生」の街として栄えてきた金沢。明治24（1891）年完成のモダンな赤レンガ造りが印象的な石川四高記念文化交流館は、そんな歴史と魅力を知ることができる複合文化スペースで、石川四高記念館（無料）と石川近代文学館（有料）の2つに分かれています。

石川四高記念館は、明治26年から約60年間、旧制第四高等学校（四高）として歩んだ歴史をたどり、四高生をはぐくんだ土壌や時代を知ることができます。

一方、石川近代文学館では、泉鏡花・徳田秋聲・室生犀星の三文豪から現代文学まで、石川ゆかりの文学者の著書や原稿、愛蔵品などを展示。来館者が広げた手のひらに石川の風土を表す言葉を投影したり、犀星の書齋を復元したりと、さまざまな工夫を通して文学に親しむことができます。

11月24日まで企画展「中野重治 肉筆原稿に見る〈文学者〉として生きた生涯」を開催中。四高出身で「最後の文学者」とも呼ばれる中野重治の世界をお楽しみください。



▲ 同館は国の重要文化財に指定され、ライトアップスポットとしても人気を集めています



▲ 太鼓や優勝旗が飾られたコーナーでは、四高生のスポーツにかける情熱を伺い知ることができます



▲ 鏡花・秋聲・犀星それぞれの関わりなどが分かる石川近代文学館の「石川近代文学と三文豪」

交通アクセス

金沢市広坂2-2-5 TEL 076 (262) 5464

◎開館時間／午前9:00～午後5:00

(入館は午後4:30まで)

※貸館は午後9:00まで

◎休館日／年末年始(12/29～1/3)

◎入館料／石川四高記念館は無料

石川近代文学館は一般350円(280円)、大学生280円(220円)、高校生以下無料()内は20人以上の団体料金



石川四高記念文化交流館

検索

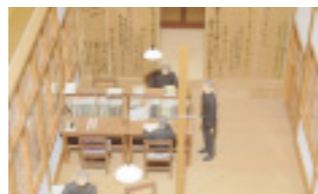
“ふるさと”お宝キーワード

「四高」

金沢大学の前身となった四高には、全国から俊英が集まり、井上靖や西田幾多郎など、さまざまな分野の第一線で活躍する人を数多く輩出しています。また、柔道や野球などのスポーツも盛んで、高下駄にマントを着けたバンカラな姿で街中を闊歩する四高生は、金沢市民からも非常に愛された存在でした。



四高生が青春時代を送った寮生活を再現した模型



石川四高記念文化交流館副館長
新宅 剛さん

石積みの棚田が映える集落で 笑顔広がる交流を推進

里山里海だより

木滑地区 (白山市)

SATOYAMA SATOUMI

白山ろくの上木滑、下木滑、木滑新の3集落からなる木滑地区。大正昭和初期にでき、法面に石を積み「石積みの棚田」が今も残り、緑に囲まれたのどかな山村の光景が広がっています。

一方で、高齢化や過疎化が進み、耕作放棄地が増えているのも実情で、同地区では平成21年に白山市上木滑が県の先駆的里山保全地区に選定されたのを機に木滑里山保全プロジェクトを開始しました。耕作放棄地に牛を放牧し、雑草を食べてもらったり、ポランテイヤの支援を受けて石積みを補修したりするなどの活動を展開。取り組みを通して、耕作放棄地で再び稲作ができるようになるなど目に見える効果を上げています。

また、季節ごとに交流イベント「山笑い」を開催しています。イベントには田植

えや農作物の収穫、かんじきウオークなど、その季節だからその里山の体験と遊びが目白押し。木滑に伝わる踊り「あさんがえし」も

披露し、会場はふれあいを楽しむ地元住民と市内外から訪れた多くの人たちの笑顔に包まれています。



▲ 秋の山笑いでは石積みの棚田で収穫体験を実施

里山からのメッセージ

ふれあいが住民の元気に

「里山保全に取り組み、最もうれしかったのは、住民同士や地域外の人たちとの“つながり”が増えたことです。それに伴って、木滑で暮らすお年寄りの顔がみるみる元気になっていきました。さらに、今年4月からは県外出身の20代の夫婦が集落内の空き家で新生活を始めるなど、木滑の未来に明るい光

が差し込み始めました。これからは周辺地域と連携し、白山ろく全体の里山を楽しむ企画を考え、地域の活性化を加速していきたいと思っています」

木滑里山保全プロジェクト代表
田島 一三さん



木滑里山保全プロジェクト

白山市木滑ト25

TEL 090 (4684) 6189 (担当/小杉)

Eメール p_satoyama@h-staff.jp

ホームページ http://kinameri.net/

11/30(土)~12/23(月・祝)

石川県立歴史博物館

移動展〈リニューアルオープン企画〉

『モダン金沢と映画文化』

昭和61(1986)年に開館した石川県立歴史博物館は、展示内容を一新し、平成27年春リニューアルオープンします。

このたび、オープンに向けたプレ企画として、石川四高記念文化交流館を会場に、当館所蔵品による移動展を開催します。昭和初期の映画のポスターをはじめ、チラシ、関連雑誌、金沢の映画館の写真など、当時の豊かな映画文化の香り漂う資料の数々をご覧ください。

会場

石川四高記念文化交流館 石川近代文学館

金沢市広坂2-2-5 / TEL076(262)5464

【開館時間】 午前9:00~
午後5:00
(入館は午後4:30まで)

【観覧料】 一般 350円(280円) / 大学生 280円(220円)
高校生以下無料()は20名以上の団体料金

【問い合わせ】

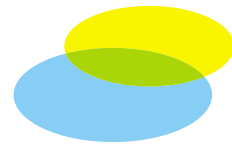
石川県立歴史博物館
金沢市出羽町3-1 / TEL076(262)3236



戦前の映画雑誌と
プロマイド

昭和初期、
金沢市尾張町に
あった昭和劇場

人生を、満開に。



ワオリティ・シニアマンション

スプリングライフ金沢

三谷商事グループの介護付有料老人ホーム

ゆとりの「一般居室」と
安心の「介護居室」

北陸唯一^{※1}の24時間
介護・看護体制。^{※4}

終身介護をお約束。^{※5}
介護居室への住み替え費用も不要。

経験豊富なスタッフ&
充実した共用施設。

資料請求・ご見学・体験入居のお問い合わせは

☎0120-132-871

スプリングライフ金沢

検索

パンフレットを
お送りします▶

事業主体/スプリングライフ金沢 株式会社

※当社は三谷商事(株)の100%出資による会社です。

石川県金沢市栗崎町4丁目80番地2

Tel.076-238-8000 Fax.076-237-2323 http://springlife.jp/

(社)全国有料老人ホーム協会 正会員 石川県指定介護保険特定施設(一般型特定施設)

石川県指定第1770100012

※1 介護ビジョン編集部による地域別調査レポート(H22年6月)に基づく。北陸とは石川県・富山県・福井県の3県を指します。※2 天然温泉：(泉質)ナトリウム、カルシウム塩化物塩泉【効能】神経痛、関節痛、冷え性、慢性婦人病等 当ホームの天然温泉は、泉温が高いので井戸水を加水しています。※3 写真は実際のお料理の一例です。※4 夜間時(17:30~翌8:30)は看護職員1名・介護職員2名(最少人員各1名ずつ)の配置となります。※5 入居者の行動が、他の入居者又は、従業員の生命に危害を及ぼし、又は、その危害の切迫した恐れがあり、かつホームにおける通常の介護方法及び接遇ではこれを防止することができないときは、契約解除となる場合がございます。



「温泉旅行」へは
半年に1回は行く。
「温泉」へは週に10回は行く。



北陸唯一^{※1}の
「天然温泉」
掛け流しの大浴場と
露天風呂。^{※2}

キッチンに立つ時間が減った。
2人で居る時間が増えた。



北陸唯一^{※1}。
朝昼晩、
メニューを選べる
お食事を
ご予約不要で
毎日ご用意。^{※3}

▲お食事一例(一般棟)



「いざという時」の安心があるから、
「いま」を楽しめる。



北陸唯一^{※1}、
24時間
体制での
終身介護を
実施。^{※4}

前略 石川県知事

県政に対する
ご意見・ご提言を
お寄せください



住所・郵便番号・氏名・年齢・職業をご記入の上、
郵便またはファクスでお送りください。

〒920-8580 (住所の記入不要)
石川県広報広聴室「前略 石川県知事」あて
TEL 076 (225) 1362 FAX 076 (225) 1363

ふるさと納税

「ふるさと石川」の魅力アップに活用します。
県外在住のご協力者を紹介してください。

●問い合わせ
石川県県民交流課 TEL 076 (225) 1361
www.pref.shikawa.lg.jp/kenmin/furusatonouzei/



環境保護のため、大豆インクを使用しています。紙は資源です。リサイクルしましょう。